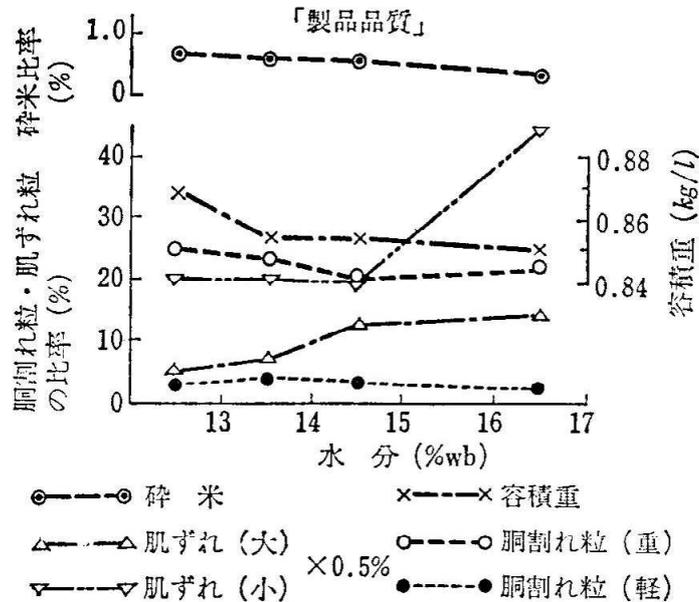


# 10 調製

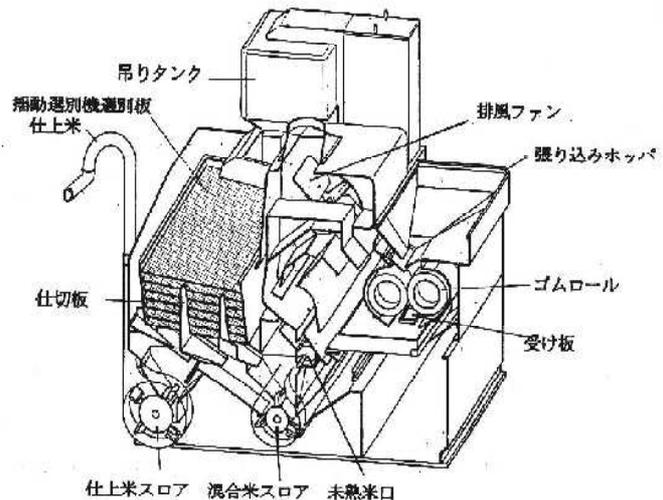
## (1) 舂すり作業

- ① 図V-10-1に示すとおり、舂水分が低すぎると碎米や胴割粒が多くなり、逆に、水分が高すぎると肌ずれ米が多くなり、脱ぶ率も下がるため、15.0%で乾燥を終了し、1日以上放冷して舂水分のバラツキを少なくしてから舂すりを行う。



図V-10-1 水分と碎米・肌ずれ粒・胴割粒との関係 (ゴムロール式、山下)

- ② 作業に先立って、試しずりを行い、脱ぶ点検口から米を取り出して調べ、脱ぶ率が80~85%になるように、ゴムロール間隔や舂供給量、風選部の風力を調整する。仕上米に舂が混入する場合は舂玄米選別部の選穀装置を調整する(揺動式の場合、選別板を調整)などしてから、本作業に移る(図V-10-2)。選穀装置には揺動式、インデントシリンダ式などがある。



図V-10-2 舂すり機の一例 (揺動選別ロール式舂すり機)

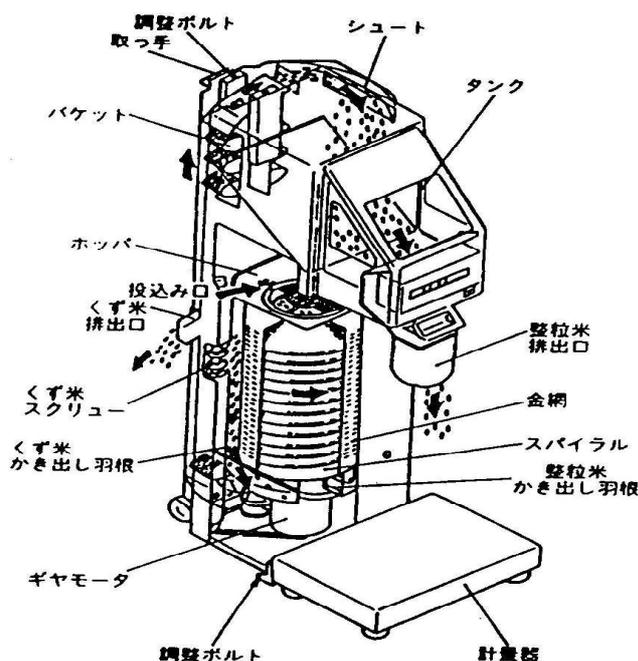
- ③ カーボン黒の付着や胴割れが多いときは、ロール間隔が狭すぎることが考えられる。また、二度ずりが多い場合は、供給過多などが考えられる。

## (2) 米選作業

米選機は、玄米中の砕米やくず米を除去する機械・装置であり、その構造の一例として、縦型回転式米選機を図V-10-3に示す。

初すり後の玄米が、上部のシュートから供給され、下向きに落下する間に、円筒の回転の遠心力により、外筒の金網に当たることにより選別される仕組みである。くず米は、金網の外側に、仕上げ米は金網内の下部に集められる。

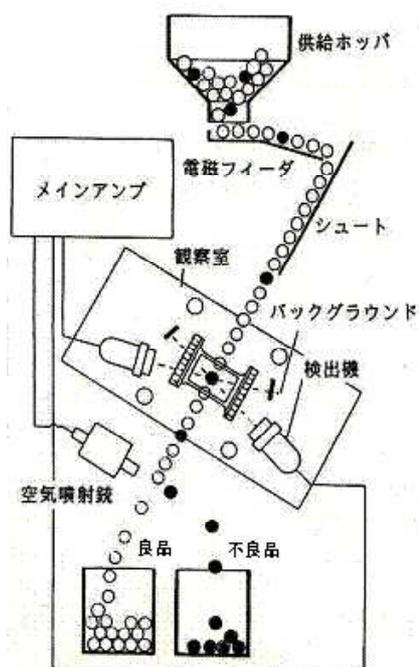
米選機の網目は、1.85mm (L) 以上のものとする。なお、大粒品種は1.9mm以上のものを使用する。



図V-10-3 縦型回転式米選機

## (3) 色彩選別機

色彩選別機はシュートを流れる玄米に光を当て、着色粒（斑点米）、未熟粒、被害粒、死米、砕米や石、ガラス、プラスチック、金属片などの異物を選別する。個人利用では数チャンネルの色彩選別機が使用されているが、カントリーエレベータなどの選別調製施設では数百チャンネルの色彩選別機が使用されており、全ての玄米の選別に利用されている（図V-10-4）。



図V-10-4 色彩選別機の選別原理(左)と外観の一例(右)